

薬乱用で発症の恐れ

薬も飲みすぎると毒になる。頭痛を治すために薬を飲みすぎて慢性の頭痛になる「薬物乱用頭痛」が増えているという。普通の鎮痛薬だけでなく、鎮痛薬が入った市販の風邪薬でも連続して服用すれば起こるため、注意が必要だ。

慢性頭痛

「頭痛のために市販の痛み止めを飲んで、最近効かなくなってきたばかりか、頭痛が毎日起こるようになった」「毎日のように朝起きたときから頭痛がする」

1カ月で15日以上

こんな症状で一カ月に十五日以上頭痛が起こるなら「薬物乱用頭痛」の可能性がある。ところが医師や薬剤師でも、この病気のことを知らない人が少なくないらしい。

頭痛治療に詳しい間中病

院（神奈川県小田原市）の間中病院長によると、日本では一九八〇年ごろから、痛み止めを飲むと、かえって頭痛がこじれるという事例が指摘されるようになった。

二〇〇一年に片頭痛の特

の5%前後ではないか」とみる。薬物乱用頭痛は、頭がズキンズキンと痛む「片頭痛」と、重苦しく締め付けられるように痛む「緊張型頭痛」の両方がある人に多い。

まで、痛みはだらだら持続する。このため、つい薬を飲みすぎてしまう。すると脳で痛みに対する感受性が上昇し、いくら薬を飲んでも頭痛がとまらなくなると考えられている。

熊本市立熊本市民病院の橋本洋一郎神経内科部長によると、片頭痛だけの人も、薬物乱用頭痛になることがあるそうだ。

痛みの感受性が上昇 風邪薬も要注意

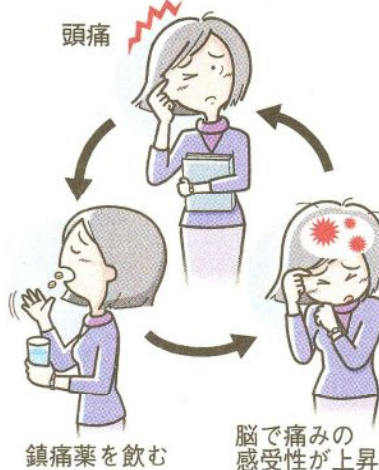
気持ち替え中止を

効薬トリプタンが発売されてから、薬物乱用頭痛の患者が顕在化。間中院長は「全国に八百四十万人いると推定される片頭痛患者

「片頭痛はともつらいのに周囲に理解してもらえず、迷惑をかけまいとして、痛くなる前に痛み止めを飲むことを繰り返してしまふ。片頭痛は現在、予防薬などで治せるので、専門医の治療を受けてほしい」

不安やうつがベースにある患者の中には、気を紛らわせるために薬を乱用する人もいる。このため、いったん離脱しても四割は再び薬物乱用頭痛になってしまう。

薬物乱用頭痛のメカニズム



薬物乱用頭痛の診断基準

①頭痛は1カ月に15日以上ある

②1種類以上の鎮痛薬を3カ月を超えて乱用している

月10日以上、トリプタンまたは複合鎮痛薬を使用

単一成分の鎮痛薬、トリプタンや消炎鎮痛薬の組み合わせの合計で月15日以上使用

③頭痛は薬の飲みすぎで起きたか、以前よりはっきりと悪化している

どの程度の服用で薬物乱用頭痛になるかの目安は薬によって違ふ。間中院長は「簡単な目安として、月十日以上服用する場合は可能性があると考えてほしい」と語る。

原因になる薬としては普通の鎮痛薬のほか、片頭痛の治療薬であるトリプタン系薬剤とエルゴタミン製剤、さらに数種類の薬が混ざった市販の頭痛治療薬などがある。

病院で処方されたり薬局で買ったりする「風邪薬」の連続服用にも気を付ける必要がある。成分としてコデインやアセトアミノフェン、カフェインといった鎮痛薬が入っているからだ。